

游藝珍物志

四



えきくらも、今にてもえきするまじき、い子、志れ、
どが、たの、う、生、らん、子、む、う、い、か、く、お、ろ、う、う、つ、ふ
まつ、ぬ、は、あ、か、く、ひ、あ、れ、さ、る、は、い、く、と、流、し、ま、う、さ、ひ
や、え、う、ま、い、め、と、い、か、う、う、一、さ、ま、ら、に、ま、い、く、と、思、ひ
て、い、う、へ、も、さ、さ、い、あ、り、い、う、へ、や、あ、ん、と、い、い、不、知、物、り、
さ、ひ、が、み、う、い、か、い、う、は、し、う、い、く、で、あ、ま、う、し、い、お、こ、と、
い、さ、る、あ、り、物、の、う、ろ、ま、り、う、らん、人、持、を、かり、て、や、せ、う、
と、い、お、ま、人、の、あ、ま、申、に、あ、ら、ま、い、あ、の、う、め、れ、る、と、三、日、の
美、の、お、ま、人、と、も、い、う、う、ま、い、う、う、ま、う、う、ん、と、ち、お、ど、の、れ
お、い、い、の、う、れ、は、ら、ま、あ、う、う、い、お、い、に、う、う、い、と、つ、後

お、い、う、う、か、う、や、い、あ、と、あ、め、れ、い、か、く、は、い、う、う、の、な、ま、
い、い、ま、ろ、ハ、何、の、に、う、う、我、は、う、らん、丹、波、お、店、ハ、年、一、う、
来、一、斗、う、に、あ、ら、ま、い、あ、ら、ま、い、今、ひ、と、う、ハ、数、中、に、う、な、ま、
や、す、く、物、も、さ、の、は、つ、う、う、う、う、毎、の、あ、め、れ、う、う、う、ハ、
三、日、石、の、物、を、く、也、か、く、ま、い、あ、ま、い、ハ、系、を、み、う、う、う、れ
た、う、し、と、は、い、か、み、れ、し、と、誰、も、く、た、ま、の、あ、お、ま、い、う、う、
を、は、る、え、お、い、て、か、く、や、い、め、う、う、う、う、う、只、是、に、し、た、は、ま、い、
く、か、う、み、う、う、い、り、え、は、つ、う、人、う、う、に、か、い、は、ん、と、も、う、あ、へ、
と、い、ハ、ま、い、は、つ、い、あ、ま、か、く、う、う、い、う、う、う、う、う、う、う、
あ、れ、も、く、さ、る、う、う、け、さ、い、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、

源氏の中の方おれをさへたがぬ、おいと多々〜として文
をまんとておれ〜として申され、また源氏
いふはりな〜として、或あまた年なん代り々々
國の〜として、な〜として、きび〜として、
唐にな〜として、つづのすけいおれ〜、
清よとてあつまりておれ〜、
おんとて〜、
は〜とい〜、
はは様〜、
きてきてま〜、

の〜、
せ〜、
るも、
や〜、
も、
き〜、
は〜、
づ〜、
と〜、
これもの〜

なんちぬざりにてやみれましうと悔しうわしはおぼ
ゆるうきかしまれどこのうみぞりてこころ路さづら
ねえとられうりおきぬぞなきみまじ帳のゆゑは
うみりちのこころ起すまじとわかしぞかどにこそ
け文もてまじり男君とりぞめて先君侍うかほけ
きこひはんとおぼすもまじりとせん後はい必
えきまうとてん帳のゆゑは入る人ばふのこぞ
てまりぞくこころも取さうとぞはきこみやん
んとていあけぞふはき彼もめれおもしくれま
れまじしうわしをわきびてよきしおあらんとゆづ

社て田やうへえんてまじきまじ

あふらぬあらうとてはよきまじきけしき思ふ
頼みこころはこれのまじき

とんきけしはうりまやまてまじきめい
もきこはまじきまじきまじきまじき
何れゆううおきすまじきまじき
まじきまじきまじきまじき
やこゝ祝祭をてまじきまじき
まじきまじきまじきまじき
にまじきまじきまじきまじき

聖なまやうしう侍らんそふ、明ぬれは、さうんのいそ
 き、^{け一孝脱又んへし}おふ、ほぐしかる衣^{きぬ}とのなまやういそ、
 た、かぐしおしうにやあらんと、さふ、たのたいあわたり
 おふとやうて、衣^そなまやうあたらふのよもあらうと思ふ
 わて、いとさふげ、まおよする衣^そ一々、みひめあれた料^{りょう}
 ち^{ひとがう}一領ちひさた人のまをまうする、格^{かく}はあらうな
 流るるものうとてまりおふ、おのころさうさふるさふ
 がうぶりない人いうみさる子よりも、まう子れ流とさう
 えるべうれ、あ子七人あれど、かく細^こういふさびかい
 りえさや、あふ、物のけめさ、さ子のなりれさうしうり

つまむねもひつるに、ぬりもくもつれ〜もゝつめや、
 きいふりもふゆふらうぶも、肺とのいたもけうらひと
 海づかきりな〜うれしきしけれ、さるめれば、事あつて
 してわたり、移りぬ、はまつとつれ〜と思ひて、やはの者
 さやか〜はむにめ、はげうれほ〜う、いとちきに、きか〜う
 ほうき〜よてかれ、ば先かよなで、い〜いのな〜しとちげぬ、
 是をいつに〜して、卒て〜うらほ〜と、思ひるんみ〜これ
 ば、ふ、ま、後、り、な、と、き、ら、れ、ん、ち、か、す、る、と、い、へ、ど、お、の、こ、
 たのちほい、あ、れ、ど、は、ま、の、の、こ、も、ひ、た、ふ、い、〜と、た、る
 なり、ま、ら、な、が、ま、つ、る、物、ら、れ、な、の、き、つ、は、あ、の、あ、り

ふりちねうてえれば

今いとしき清きまのれいぬれ領中^{しん}なる袖^{かたみ}もとむるが

やゆゑのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま

とまじりねむるのれいぬれ領中なる袖もとむるが
はしたれきいづらん^{まは}いぬ方もそなたのうらやまのうらやま
がふにのるあまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
けりしうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
まがに思ひぬるうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
まりぬるうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
社^{やしろ}なりしうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま

まがに思ひぬるうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
いひてまがに思ひぬるうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
らざりぬれきいづらん^{まは}いぬ方もそなたのうらやまのうらやま
るにやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
りしうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
がふにのるあまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
うらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
物づけてなん^{まは}いぬ方もそなたのうらやまのうらやまのうらやま
てぬるうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
笑ひぬるうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま

ばれど我つゝかゝりもゆづりしつゝもい
 ける、素情^{つらな}もつゝと老^{ふる}常^{じょう}なりや、大いどれいの
 うつれいはいひもめてつゝとハためかしや、あつぽふ
 ひくのほい、うもれほども、かゝる政^{せい}たれおの方^{かた}きちよ
 ねめとるゝ孫^{まご}いざりきもそなぬむつれ人^{ひと}ハ、家^{いへ}よりい
 つゝりる、これまた、中^{なかつ}宮^{みや}れつゝしげのなんちま
 孫^{まご}なれ、うちハ何^{なん}ちて、いゝもあら、か、はれ、あつ、あ
 づきとまゝつゝお方^{かた}うれとねづゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 うゝ孫^{まご}つゝを、かゝるもや、神^{かみ}ほもあもねづゝけん、そ
 にも死^しなむなんいゝしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 にも死^しなむなんいゝしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

若^{わか}くふめり、功^{こう}徳^{とく}をねとほきゝめゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 なるてなゝ孫^{まご}つゝけるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 るせりあらん人^{ひと}、まゝ子^こ孫^{まご}むなばゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 時^{とき}ハ、我^{われ}を居^ゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 りけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 乃^{すなは}つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 後^{のち}ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 られゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

けきばうらひく、やんをなめたものゝらん、弟の妻と巴里
うさひくふ、九大将右大將として、はびきてなりあがわ
るもくは、母きくの方、はま^{のち}福いそむとも殊^けくとそへ
り、うちハはよめおれ徳として、大納言となりてさうわ、おも
しうお袖ハ痛おもとして法師となりにけれバ、さうもや
えぬなむぐし、曲^{えんや}業の助ハ、遊^{あそ}られするを病ひして死なわ、
おれうしておさけるをも、ろどなりぬるがうちとくふま
でて、いふや説させけん、あげし生^うてたつらんものをとる
をこそ尋ねしうさひくる、お家の家司^{かみ}より、おおやとまり
て、これとくいまじうえければ、むづしの安濃^{やすのう}ハ、今ハ典侍^{ちんざむらい}

にちふべし。なりししよのそけハ二巻までつむわとや

世之為語四

寛政十一年己未仲春日

書林

京都	江戸	同	同	大坂
額田正三郎	須原茂兵衛	西村源七	同宗七	葛城長兵衛

